

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年8月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2795900014
法人名	株式会社 のどか
事業所名	グループホームのどか住之江
所在地	大阪市住之江区北島2-2-8 (電話) 06-6115-2824

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 7月 24日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 1月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤	6人, 非常勤 13人, 常勤換算 8.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	12,000円	
敷金	有 (294,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100円			

(4) 利用者の概要 (平成 20年 7月 9日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	64歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小池外科、小林デンタルクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の医療法人が別に営利法人を設立して運営するグループホームで、この営利法人では他に3つのグループホームを運営しています。「私共は、いつもそばにいて目配り・手配り・心配りの3配りの優しい気持ちで、気軽にお互いが挨拶を交わせる生活の場を作り、日常生活の中で常に、五感を刺激し、生きていることの楽しさに共感し合い一日は笑顔で始まり、笑顔で終わり地域社会の一員であると感じていただき安全で安心のできる環境を作ります」をホームの理念とし、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。母体でもある協力病院の医師と看護師のサポートが利用者や家族に安心感を与えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4)
	前回の外部評価で示された事項について、一部改善が進んでいます。系列のホーム間だけでなく、住之江区のホームとの相互交流が始まり、災害対策のマニュアルを作り、フロアドアの電子ロック解除の方法を内側に明示し、リビングにソファやベンチを置いて寛げる居場所を確保しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は管理者と一部の職員で話し合い作成しています。職員全員がかかわり、議論をしての結果とはなっていません。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4,5,6)
	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域の住民、家族の参加のもとで、3ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動方針や運営状況、行事、利用者の生活ぶりについて説明をしています。地域の行事への参加やボランティアの受け入れ等地域との交流の深め方について意見を交わしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7,8)
	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。また家族には毎月、利用者の健康状態や生活ぶりについての「生活情報」と行事やトピックス、写真をのせた「のどか便り」を送付しています。預かり金の金銭管理については収支と残高の管理をしていますが、定期的に家族に報告したり、家族の確認の日付と署名を貰っていません。家族とは面会時だけでなく、家族会の時にも家族の思いや希望、不満を表せるようにしています。また苦情相談箱も設置しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	ホームが現在の場所に開設されてから約1年7ヶ月経過し、自治会に加入して回覧板をまわして貰ったり、近隣の商店主に散歩につれていってもらったりしていますが、ここ1年で管理者が2回交替した影響もあり、地域の住民との交流はすすんでいません。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私共は、いつもそばにいて目配り・手配り・心配りの3配りの優しい気持ちで、気軽にお互いが挨拶を交わせる生活の場を作り、日常生活の中で常に、五感を刺激し、生きていることの楽しさに共感し合い一日は笑顔で始まり、笑顔で終わり地域社会の一員であると感じていただき安全で安心のできる環境を作ります」をホームの理念とし、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化してホーム内に掲示するとともに、毎朝のミーティングでも唱和し、定例のスタッフ会議や常勤会議、毎日の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	ホームが現在の場所に開設されてから約1年7ヶ月経過し、自治会に加入して回覧板をまわして貰ったり、近隣の商店主に散歩の同行をしてもらったりしています。しかしここ1年で管理者が2回交替した影響もあり、地域の住民との交流はすすんでいない状況です。	○	運営推進会議等を通じ、利用者が地域の行事に参加させてもらうことや、ホームが地域に貢献できる役割について話し合い、地域との交流を深めることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について、一部改善が進んでいます。系列内のホーム同士だけでなく、住之江区内にある複数のホームとの相互交流が始まりました。災害対策のマニュアルも作成しています。フロアドアの電子ロック解除の暗証番号を操作盤の横に明示し、リビングにソファやベンチを置いて寛げる場所を確保しています。自己評価は管理者と一部の職員で話し合い作成しています。職員全員がかかわり、議論をしての結果とはなっていません。	○	外部評価で示された事項の改善をさらに進めるとともに、自己評価については全職員が議論に参加し、作成することが求められます。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域住民代表、家族の参加のもとで、3ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動方針や運営状況、行事、利用者の生活ぶりについて説明をしています。地域行事への参加やボランティアの受け入れ等、地域との交流の深め方について意見を交わしています。	○	運営推進会議は年6回、もしくは概ね2ヶ月に1回開催することが求められます。
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当職員へ運営状況の報告や情報交換を行うとともに、区の事業者連絡会に参加して交流し、研修会にも参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。また家族には毎月、利用者の健康状態や生活ぶりについての「生活情報」と行事やトピックス、写真を載せた「のどか便り」を送付しています。預かり金の管理については収支と残高の管理をホームで行っていますが、定期的に家族への報告や、家族から確認の日付と署名を得ていません。	○	預り金の収支と残高明細は、家族の面会時など定期的に確認をしてもらい、日付と署名を得ることが求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、家族会の時にも家族の思いや希望、不満を表せるようにしています。また苦情相談箱も設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員数に比べ、管理者、常勤職員を含めた退職者の割合が多くなっています。残った職員の頑張りや新人職員の採用で利用者への影響は最小限に抑えられていますが、多くの職員が異動することで、馴染みの職員から支援を受けることができない利用者への影響の大きさを理解し、今後異動を必要最小限に抑える努力が望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修や内部研修を計画的に受講する仕組みがなく、外部研修の研修会情報の入手についても不十分となっています。新人職員の採用時研修は実施されています。	○	職員のステップアップ研修については、テーマや受講者の選定を計画的に行い、研修を実施することが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列内にあるホーム同士だけでなく、住之江区内にある複数のグループホームと相互訪問・交流を行い、情報交換やサービスの質の向上に向けて、取り組みを行っています。ネットワークへ加入することにより、研修情報を入手することが容易となり、幅広いホーム間の相互交流も期待できます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が家庭訪問を行ったり、利用者や家族がホームに来訪したり、入居体験をしたりするなど、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居、サービスを受けられるよう取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。手品の上手な方、茶道の師範だった方、洋裁の得意な方、園芸の好きな方等利用者の得意な分野で、家事や行事の機会を通して学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や利用者からの聞き取りを行っています。しかしその後の毎日の生活を通じて得られた利用者の生活歴や意向など、新たな気づきの記録と整理がなく、利用者一人ひとりの暮らしや楽しみ方の希望が十分把握できていない状況です。	○	7月から取り組みを始めたセンター方式を活用して、毎日の生活を通じて得られた利用者の生活歴や意向など、新たな気づきを記録・整理し、日々のケアや暮らし、楽しみに生かしていくことが求められます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや心身の状況を把握し、医師の意見、家族や利用者の思いや要望を反映させた介護計画を作成しています。介護計画については家族の承認も得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。モニタリングによる達成度評価を行い、サービス担当者会議でケース検討を行って介護計画の見直しにつなげています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望で通院介助をしています。散歩、外出、外食の時には地域のボランティアの支援も受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医療機関医師により往診医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前からのかかりつけ医療機関より引き続き医療を受けています。医療機関と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで看取りを実施する指針を示し、入居時に家族の同意を得ています。利用者が重度化した場合、利用者や家族、かかりつけ医と連携をとりながら話し合い、状況の変化に合わせて対応していく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて、法人と書面を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。起床時間に合わせた柔軟な朝食の時間、希望にあわせた入浴の時間、急な外出希望等について柔軟に対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の希望を聞きながら作成したメニューに従い、ホームで調理しています。利用者は買い物から食事準備、調理、盛り付け、後片付け等の一連の作業に得意な分野で積極的に参加しています。職員は利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。菜園で収穫した野菜が食卓に並ぶこともあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望によっていつでも入浴が可能で、毎日でも入浴することができます。通常週3回はゆっくり寛いだ入浴を楽しんでいます。柚子風呂や菖蒲湯等、季節の湯も楽しんでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。利用者それぞれがカラオケや手品、風物のちぎり絵、茶道、洋裁、菜園での野菜・花作りと収穫などを楽しんでいます。新聞2紙と雑誌をホームが提供しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な周辺散歩や買い物以外にスーパーへ食材の買い物、初詣や季節の花見、外食の支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価で示された鍵については改善しています。玄関ドアは内鍵方式で、フロアドアは電子ロックを解除する暗証番号を内側に明示して、利用者の外出希望に見守りで対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えるマニュアルを作成し、年1回消防署立会いで避難訓練を実施しています。非常・災害時の食料品と水の備蓄については最低限の対応はできています。	○	災害対策のマニュアルに従って、年2回の避難訓練をすることが求められます。また今後は、備蓄等について「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めをされてはいかがでしょうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。栄養バランスについては、知識のある職員が食品栄養の参考書を見ながら計算し、看護師がアドバイスしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花、観葉植物、絵画が飾られ訪ねやすい雰囲気になっています。リビング兼ダイニングルームは明るく開放的なスペースになっており、食卓以外にソファやベンチがあり、寛げる居場所になっています。壁には季節の花や風物のちぎり絵作品や行事写真が貼られ、新聞や雑誌、レクリエーション道具もあり、落ち着いた雰囲気になっています。季節の生け花を飾るなど、さらに安らぎと華やかさが感じられる空間にされてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が整理ダンス、飾り棚、絵画、装飾品、家族の写真、テレビ、時計、鏡等、使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせる場所となっています。ただ、事情により、一部の居室で持ち込みの家具等がほとんどなく、もの淋しい居室もあるため、今後は利用者や家族と相談しながら、ホームが支援していくことが望まれます。</p>		